

日々充実

会員 飯田 健太郎



夢叶う

「人助けがしたい」

私が弁護士になりたかった唯一の理由である。

弁護士の仕事が始まるのを長い間待ちわびていた。そして2010年8月26日、ついにその夢が実現した。ただ、仕事が始まれば忙しくなるのは分かっていた。自分が右も左も分からない未熟者であることも分かっていた。先輩方に教わり、自分で実際にやってみることで初めて身につくものが数多くあるのも分かっていた。

そして実際に仕事が始まり、多忙になり、壁にぶつかり、想像以上に苦闘する日々が続いた。それと同時に日々の成長も想像以上に実感できている。微力ながら「人助け」に貢献できることも多くなってきた。

何をやるにも初めてで、初めてだからこそ手を抜きたくなかった。スケジュールに余裕のある今のうちに思い切り力を注いで、出来る限りのことはやってみたかった。今後の自分の成長のことを考えると、立ち止まってはられない。

毎日の接見

東京弁護士会の新人研修では、捜査弁護での接見は毎日行くものと教わった。全面的な「認め」の事件はないとも教わった。これまで5件の捜査弁護を受け持ったが、いずれも何かしらの争いがあり、毎日のように接見に行った。勾留決定に対する準抗告も3件経験した。いずれも棄却されたが、その際の活動はその後の不起訴につながっているはずだ。1件は起訴されれば実刑が確実な事案であったが、被害者の所へ3度、延べ6時間程立ち寄り示談を成立させた上、被疑者釈放後の施設入所を検事と約束し、不起訴となった。

起訴された1件は裁判員裁判となり、これが初めての公判弁護になった。

スピードの求められる保全

保全手続を3件経験した。うち1件は、登録後1週間も経たないうちに一人で申立てに行き、失敗を何度も積み重ねながらも何とか和解まで持ち込んだ。もう1件は、裁判官から何度も訂正を促され、睡眠時間を削っては何度も裁判所に申立書を出し直し、何とか決定を出してもらい、紛争解決に向けた第一歩を踏み出した。

多様なクレサラ案件

クレサラ案件は既に30件近くなった。何度も依頼者と打ち合わせて、少しずつ信頼関係を築いていく経緯を実際に経験し、そして依頼者が元気を取り戻していく経緯も目の当たりにした。自分が想像する以上の重圧が依頼者にのしかかっていることを知った。

泥臭くとも

多忙な先輩方では到底首のまわらなくなってしまうような非効率的な業務の進め方ではあるが、今だからこそ、そういった泥臭いやり方でもよいのではないかと思っている。泥まみれになりながらも、そうやって少しずつ経験を積み重ねていき、様々な問題に対する解決の糸口を探し出し、依頼者をより良い方向へ導き出す「人助け」のできる弁護士になっていきたい。

公設事務所に所属し、そして、いずれは地方に赴任する身として、会員の先輩方には多くのご支援を賜っているが、自身の日々の成長で恩返ししていきたい。